茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究　第 2 号（2019），91-102

日本人学生の韓国留学観の変化に関する一考察

高柳　有希 *・安　龍洙 **

（2018 年 10 月 1 日 受理）

Changes in Japanese Students' Attitude toward Study in Korea

Yuki TAKAYANAGI* and Yong Su AN**

（Received October 1, 2018）

要旨

本稿では、PAC 分析法を用いて、韓国留学中の日本人学生 3 名を対象に 3 回に渡って韓国留学観について追跡調査を行った。その結果、1 回目の調査では、「人と人との距離が近い」「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」という項目が被調査者 3 名に共通して挙げられ、「人と人との距離が近い」に関しては、驚くがプラスに捉え、「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」に関してはマイナスに捉えていた。2 回目の調査では、「韓国の文化に慣れた」「日本に関心を持ってくれる（親切にしてくれる））人が多い」「韓国語に限らず韓国に関わる仕事したい（将来の選択肢が増えた）」「服は意外と無難（他人と同じにする）」「酒文化」「交通費が安い」という項目が 2 名以上共通して見受けられ、特に「韓国に慣れた」という特徴が強く伺えた。帰国直前に行った 3 回目の調査では、被調査者 3 人に共通して 2 回目からあまり変化がないこと、韓国に慣れて日韓の違いを意識しなくなったことが示された。しかし、お酒の文化に関してはネガティブな印象が変わらないかもしくは強まる傾向が窺えた。

【キーワード】日本人留学生、韓国留学、追跡調査、留学観の変容、PAC 分析

1. はじめに

本研究は、日本社会における日本人と外国人の異文化相互理解について、外国人がどのように理解し評価しているのかを、個人別態度構造分析法（Analysis of Personal Attitude Construct: PAC 分析法）を用いて、認知的・情意的観点から探る一連の研究の一部である。

*仁済大学文理科学部国際語文学部日語日文専攻（〒 621-749 Inje-ro 197, Gimhae, Gyeongnam, College of Humanities and Sciences, Faculty of International Language and Literature, Major of Japanese Language and Literature, Inje University）

**茨城大学全学教育機構（〒 310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan）

本稿では韓国に交換留学中の日本人学生 3 名を対象に PAC 分析法を用いて「韓国留学」の特徴及びその変容を探った。外国人学生及び日本人学生の海外留学観を探った先行研究としては 安（2014、2016、2018a、2018b）、池田（2014）などが挙げられる。

安（2014）では韓国人留学生を対象に彼らの日本留学観とその変化を探った。その結果、「反日感情」にはマイナスのイメージ、「地震」「原発事故」には不安なイメージ、「優しくて親切な日本人」にはプラスのイメージを持っており、「反日感情」「地震」「原発事故」に関しては日本留学を通してイメージが薄らぎ、マイナスのイメージからプラスのイメージに変わっていることが示された。

安（2016）ではインドネシア人留学生を対象に彼らの日本留学観と留学前後の日本留学観の変化について探った。その結果、2 名以上の被調査者に共通して「物価が高い」「模範意識が高い」「本音を出さない」「お酒が好き」「消極的」「時間を守る」「課題・宿題が大変」「季節に対するポジティブな印象」「一人暮らしの楽しさ」「アルバイトについての言及」「自転車の利用」などのイメージが挙げられ、日本人に対する「曖昧さ」「本音をあまり出さない」というイメージは来日後に弱まり、「課題・宿題」に関してはプラスのイメージからマイナスのイメージへ、「飲み会・飲み屋」に関してはマイナスのイメージからプラスのイメージに変わることがわかった。

安（2018a）では東欧出身短期留学生（ロシア、キルギス、ハンガリー、ブルガリア）を対象に彼らの日本留学観を探った。その結果、日本留学について「日本の大学生は外国人に無関心」「日本で知り合った留学生を通して日本以外の国にも興味を持つようになった」とし、日本人及び日本社会にについて「日本は安全で暮らしやすい」「仕事を重視する社会」とし、留学生と日本人との交流について「外国人との交流に消極的だが、親切で困った時に助けてくれる」とした。また、東欧出身短期留学生たちに共通して、「日本人の優しさ」「日本のサービス」「外国人に対する親切な態度」をポジティブに捉えているということが分かった。

安（2018b）では日韓プログラム 14 期生の韓国人を対象に、彼らの留学観の特徴と変化について探った。その結果、日本留学に期待を抱く一方で日本の「自然災害」「生活費」「生活環境」に不安を抱いており、来日後は「自然災害」「異なる環境への適応問題」「言葉や文化の違いによる不安」などが解消され、日本社会に適応していった。また日本の「いじめ」や「個人主義」に関しては、来日前のネガティブなイメージが、来日後ポジティブなイメージへ変化した。

池田（2014）では韓国仁済大学で実施された 3 週間の夏季語学研修に参加した日本人学生を対象に、彼らの海外留学に対するイメージ及び意識の変化を探った。その結果、複数の学生に「異文化体験に大きな意義を感じる」「韓国語を学びたいという気持ちがより一層強まった一方で、留学において言語を重視しない」「留学を自分自身の成長の場だと考える」「留学自体の不安より、留学制度や帰国後の状況が不安」という点が共通して見られた。

本研究では日本人学生 3 名を対象に、1）渡韓直後（2017 年 11 月）に 1 回目の調査、2）1 回目の調査から 5 ヶ月経過した時点で 2 回目の調査（2018 年 3 月）、3）約 11 ヶ月交換留学を終え帰国する直前に 3 回目の調査（2018 年 6 月）、をそれぞれ実施し彼らの韓国留学観の特徴と変化について検討した。

2. 調査方法

調査は、1 部と 2 部に分けられる。1 部は質問紙による調査で、調査協力者の属性を尋ねるフェイスシートと「韓国留学観」に対するイメージ評価からなっている。1 部のイメージ評価の手順は

以下の通りである。

(1) あなたは「①韓国での留学生活、②将来の進路、③私と韓国人との交流」などの表現からどんなイメージが思い浮かびますか？思い浮かんだイメージを「単語、または短い文」で下の【質問Ⅰ・記入例】のように【質問Ⅰ】に記入してください。上記①～③はイメージ項目に入れて、あなた自身のイメージを7個以上書き、全体のイメージ項目が10個以上になるようにしてください。

(2) (1) で書いたそれぞれの「単語か短い文」が、プラス・マイナスのイメージに関係なく、あなたが「韓国留学」を考える時に、重要と考える順番に並べ替えてください。

(3) 次に、「重要イメージ」のイメージ項目同士を比較して、二つの組み合わせがどの程度近いか、判断していただきます。最初に、①と②を比較します。①と②の関係が、直感的なイメージやその内容から見て、どの程度近いか、次の尺度で判断して、「1、2、3、・・・」と書いてください。同じ要領で、①と③、①と④・・・というふうに、最後の組み合わせまで比較して、記号1、2、3などで書いてください。尺度は、非常に近い=1／かなり近い=2／いくぶん近い=3／どちらともいえない=4／いくぶん遠い=5／かなり遠い=6／非常に遠い=7とします。

上記（3）において作成された「重要イメージ対比表」を基に、ウォード法でクラスター分析をし、デンドログラムを作成した上で、2部のインタビューによる調査を行った。2部の調査では個々の調査協力者のデンドログラムに基づき、インタビューによる調査を行った。まず、調査協力者にクラスター分析を行ったデンドログラムを見せ、各項目についての説明やクラスター分けについての解釈について尋ねた。最後に、連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は（＋）、マイナスイメージの場合は（－）、どちらともいえない場合は(0)の記号を記入してもらい、各イメージを抱くようになったきっかけや媒体などを尋ねた。1回目の調査は、第2著者立会いのもと第1著者と共同で行った。また、2回目と3回目の調査は第1著者が行ったが、1回目の調査で得られたデンドログラムを提示し、1）その時点での各クラスター及びクラスター全体についての解釈、2）各クラスターを見て、イメージが変わったり無くなったりしたことや新しくイメージが生まれたことがないか、について尋ねた。

3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し被調査者自身の解釈について述べる。

3.1. 被調査者A

図1は被調査者Aの1回目の調査時のデンドログラムである。

被調査者Aのクラスター1～クラスター4までのクラスター解釈を以下の表1に示す。また、クラスター名については、クラスター1を「将来と留学の関係」、クラスター2を「留学生活」、クラスター3を「韓国人に感じること」、クラスター4を「韓国文化について」とした。

クラスター1では、1回目2回目ともに将来に関わるという部分で共通しているもの、韓国のテレビを中心に話した1回目に比べて、2回目は日本のテレビの良さにも気づいたということを話している。3回目では特に変化はない。クラスター2では、1回目には韓国人にどれほど踏み込んでいいかわからないと話していたのに対し、2回目では具体的なエピソードも混じえて韓国人との絆に関して嬉しそうに語ってくれた。それと同時に、人間関係において日韓の国は関係なく、結局は人の問題だということも話してくれた。3回目では、韓国人との嬉しいエピソードを混じえながら、

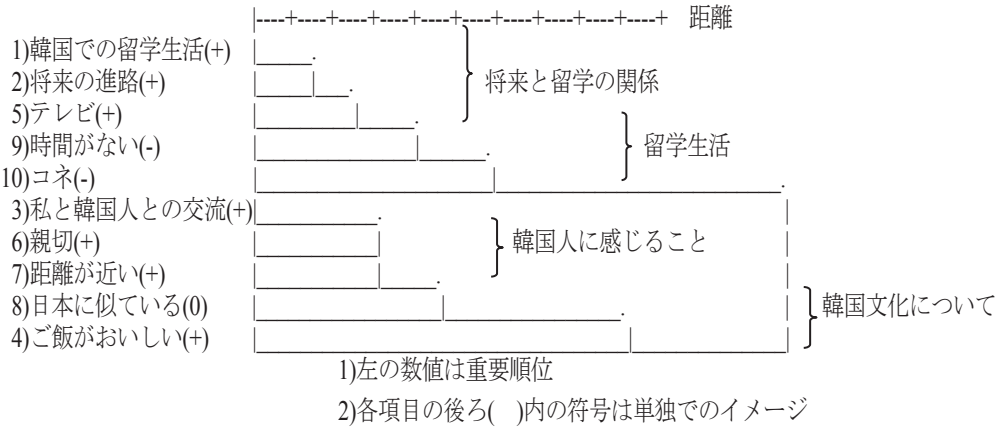

図 1　被調査者 A のデンドログラム

中身の濃い時間を送れたと話し、留学の限られた時間に関してもポジティブな印象になったと答えた。クラスター 3 では、1 回目で、嬉しいが驚いてしまう「韓国人の踏み込んだ親切」や「距離の近さ」について話していましたが、2 回目ではその背景にある「韓国人のパーソナリティーゾーンの狭さ」に気づいたことやストレートな表現に見えて実はすごく考えて発言していることに気づいたなど、韓国生活を通して人の内面を理解していることが伺えた。3 回目では、2 回目で話していた「ストレートな表現の裏でよく考えている」という印象が薄れ、韓国人はいいことも悪いこともストレートに表現していると話していた。クラスター 4 では、2 回目で韓国の交通費が安いことやおかずが無料ででてくるなどの韓国ならではの良いところを挙げながらも、日韓の区別をあまり意識しなくなって、「“韓国の”良いところ」と考えても、あえて出てこなくなったということも話していた。3 回目では 2 回目とあまり変化は無かった。

全体として、被調査者 A は留学を通して韓国人や韓国文化に深く溶け込み、日本と特に区別して意識しなくなっている印象を受ける。また、短期ではなく留学として韓国に来れたからこそ、韓国人との深いつながりが持てたと話した。

表 1　被調査者 A のクラスター解釈

クラスター 1：*『1）韓国での留学生活 (+)』『2）将来の進路 (+)』『5）テレビ (+)』（『10）コネ (-)』）*	
1 回目	将来の進路に対するイメージ。韓国のテレビに関係した仕事をしたい。タシポギ（再視聴）、VOD など韓国のテレビの多様性に驚いた。韓国のテレビについてもっと知らなくてはと思う。テレビ業界はコネが大切。
2 回目	留学が終わったあとの将来に対するイメージ。日本に一時帰国時、日本のテレビ業界にも興味が広がった。地方局が人の 10 年を追ったドキュメンタリーなどを作っているなど、韓国に出たことによって日本のテレビの魅力に気づいた。韓国はコンテンツが多くで選べるけれど、日本は番組の種類が少ない分、集中してテレビを見ている。韓国はドラマを番組局が作らなくて、日本は番組局が作るからシリーズものができるということも分かった。韓国の老人はテレビを本当によく見る。イケメンは万国共通。日本のスターは韓国でも人気だし、それが共通の話題になる。
3 回目	留学と将来に関わること。2 回目とあまり変わらない。やはり、日韓どちらのテレビも好き。テレビに加えて日韓共に「YouTube」なども盛んだと感じた。
クラスター 2：*『9）時間がない (-)』（『10）コネ (-)』）『3）私と韓国人との交流 (+)』*	
1 回目	留学生活で大事にしたいこと。試験など時間に追われる。限られた韓国人の知り合いとよりしっかり向き合いたい。韓国は、知り合うのは簡単だけど本当に仲良くなるのは難しい。韓国人の生活のテリトリーにどこまで踏み込んでいいかわからない。

2 回目	韓国にいる今のイメージ。コネに関しては、学生としては関係ないと思った。韓国人の交流に関しては、韓国人だからとか日本人だからとかは関係なくて、結局は人だと思う。なかなか会えない人（韓国人）でもすごく自分のことを大事にしてくれる。意外と日本に関心を持ってくれている人が多い。
3 回目	韓国での生活。留学生活の通していやらしい意味の「コネ」ではなく純粋な人との「コネクション」が増えた。韓国人との交流では、会えば会うほど仲良くなる感じがある。交流に対する良いイメージはさらに強まった。時間に関しては、外国人の自分に声をかけてくれることのありがたさがあって、誘われることすべてに参加していたら時間が無くなってしまった感じ。時間がないことに対するイメージは、悪いことばかりではないと思った。
クラスター 3：*『6）親切(+)』『7）距離が近い(+)』*	
1 回目	韓国人のイメージ。バスで他の子供が泣いていたら、他人であってもみんなであやすといったような一歩踏み込んだ親切が印象的。知らない人同士でも、距離が近いと思った。個人的には嬉しいけれど、慣れていなくてびっくりする。
2 回目	私が韓国の人に思うこと。韓国の人は距離が近いイメージだったけれど、それは積極的に韓国の人がくるというかは、韓国の人の思う個人のパーソナリティーゾーンが狭いからだと感じた。日本人に比べて韓国人はストレートに表現するように見えるが、実は結構考えて話していると思った。
3 回目	韓国の友達のイメージ・人間性。日本語や日本文化を知っていない韓国人とも仲良くなってきたが、その友達がワールドカップで日本を一緒に応援してくれたりして嬉しかった。前学期で仲良くなった韓国人の友達が、今学期に茨城大学に留学に行って自分の友達とつながってるのが嬉しい。2 回目の時に感じた「ストレートな表現の裏でよく考えている」というイメージは薄れた。いいことも悪いこともストレートに表現するから、すべて真に受けていたら、誤解が生まれるかもしれないし、いけないと思った。前会った時には悪口を言っていても、知らないうちに仲直りしていいことを突然言い出したりする。韓国の人は喧嘩しても仲直りが早い。
クラスター 4：*『8）日本に似ている(0)』『4）ご飯がおいしい(+)』*	
1 回目	韓国の文化。目上の人を敬うことや、挨拶をしっかりするなど礼儀が似ていて共感しやすい。韓国が好きになってから辛いご飯も食べられるようになったので、ご飯も美味しく食べられる。
2 回目	韓国のいいところ。韓国に慣れて、あまり「韓国が」どうとか感じなくなってきた。おかずが無料。国内移動や、日本との行き来も含めて交通費が安いのが良いと思う。
3 回目	韓国に親しみを感じるところ。2 回目と大きく変化はない。顔が似ていたり、白ご飯があったりするのもいい。韓国の方が楽だと思うところは、夜にお店がやっていること、夜一人で歩きやすいこと、交通費が安いこと、ご飯代が安いことなどがある。
クラスター全体	
1 回目	将来やりたいことがあったからこそ、この韓国留学があったと思う。韓国のテレビの進んだシステムがやはり面白い。
2 回目	韓国人になった感じ。都合のいい時だけ日本人ぶるところはあるかも。心が広くなりたい。
3 回目	交換留学で、2 週間の短期研修ではできない深い付き合いができた。韓国人は、仲良くなる時間は早いが、より深い関係になるのは半年以上の時間が必要だと感じた。1 年という時間があったからこそ、韓国人の友達と本心を語れる仲になれた。何ごとも外に出るのが大事だと思った。

3.2. 被調査者 B

図 2 は被調査者 B の 1 回目の調査時のデンドログラムである。

被調査者 B のクラスター 1 ～クラスター 5 までのクラスター解釈を以下の表 1 に示す。また、クラスター名については、クラスター 1 を「韓国生活の中での意外性」、クラスター 2 を「仕事選択時に考える生活のし易さし難さ」、クラスター 3 を「韓国人と付き合っていく上で感じたこと」、クラスター 4 を「実際に生活して見えた韓国生活の実態」、クラスター 5 を「ファッション（日本で普段感じる発展してほしいところ）」とした。

クラスター 1 では、1 回目で日本にはない韓国のフレンドリーさや、韓国の中での日本（日本人）について、また日本人の自分が直接感じる韓国など、日韓に焦点を当てて話していたが、2 回目で

は韓国に限らず世界の国の中の日本に関して話したいた。3 回目では、2 回目とあまり変化がないと話した。クラスター 2 では、韓国には辛いものか甘いものしかないと感じていた 1 回目に比べて、2 回目では韓国料理にも様々な味、料理があることがわかったと話した。また、1 回目では自分の将来について「韓国語を使う」ことにこだわっていたが、2 回目では「韓国に関わって留学経験を生かせる仕事がしたい」と話し、被調査者 B の視野の広がりを感じさせる。3 回目では 2 回目

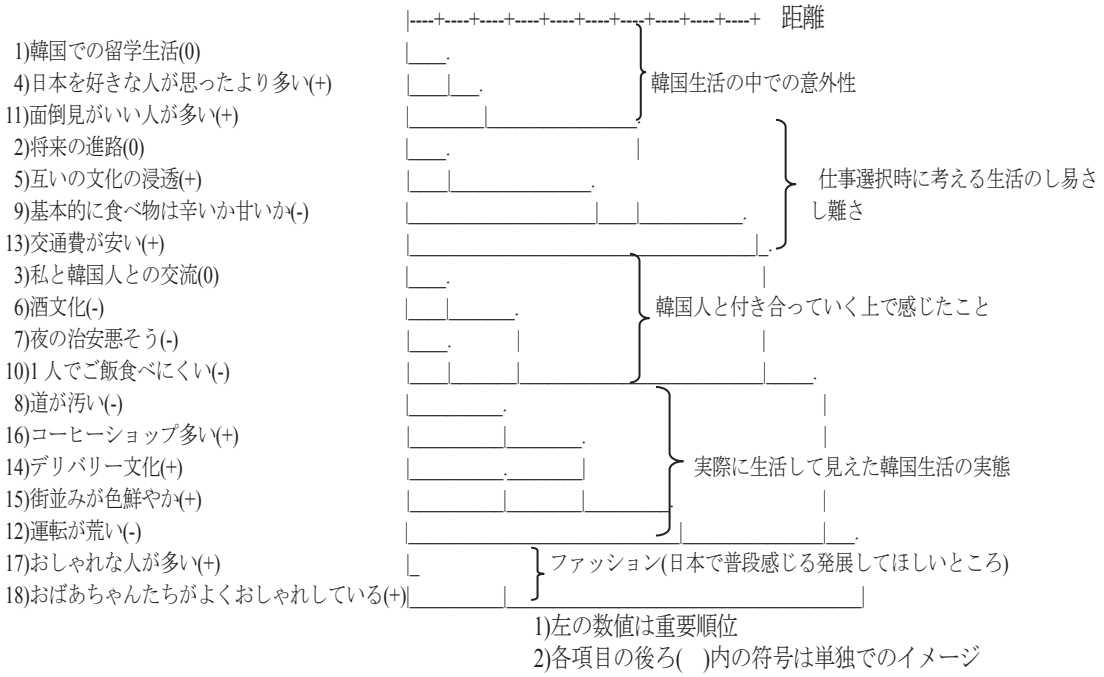

図 2　被調査者 B のデンドログラム

表 2　被調査者 B のクラスター解釈

クラスター 1：*『1）韓国での留学生活(0)』『4）日本を好きな人が思ったより多い(+)』『11）面倒見がいい人が多い(+)』*	
1 回目	韓国で過ごさなかったらわからなかった韓国の人のことについて。もともと韓国が好きで日本にいるときから韓国のことを調べて知っているつもりでいたが、日本では韓国の悪いニュースばかり（とくに釜山では慰安婦像のこと）がとりあげられているので、韓国で日本はあまり好かれていないと思っていたが、実際は日本人ということですごく良くしてもらって驚いた。また、チューターの韓国人やカフェで出会った人たちが、「ご飯行こう」「家にもおいで」などすぐ言ってくれて、韓国の人は自分の内側に人を入れるのが早いな、フレンドリーだなと思った。
2 回目	実際に韓国で生活していて、人と接する中での意外性。韓国人からだけではなく違う国の人たちからも日本人ということで親切にしてもらえたり、好いてもらえたりすることが多い。また、1 回目の時に比べて、無くなったイメージ項目は無い。人脈が広がって、日本と関わりが無い韓国人とも関わる機会が増えたが（学校外の人も含む）、日本人を珍しく思って親切にしてくれる人も多いと新たに感じた。
3 回目	韓国での人との関係。2 回目と変わらない。韓国人の方は、知り合いに日本留学をした人がいたり、家族が日本に住んでいたりなど、意外と日本との関わりがある人が多いと思った。
クラスター 2：*『2）将来の進路(0)』『5）互いの文化の浸透(+)』『9）基本的に食べ物は辛いか甘いか(-)』『13）交通費が安い(+)』*	
1 回目	韓国の一般的な文化。韓国はメニューの種類が少なくてしょっぱいものがあまりない。韓国料理のお店が本当に多い。日本では韓国の K-POP やファッション、メイクが浸透しているが、韓国では日本の食（おでんなど）や、漫画アニメなどが浸透している印象を受ける。韓国に実際に来てみて、これらの印象は強くなった。

2 回目	将来の進路を決める際考慮する部分。食べ物に関してのイメージが弱くなった。韓国料理は辛いものや甘いものだけではなく、種類がたくさんあることを知った。10 月の時は韓国語を使った仕事につきたいと思っていたが、今は韓国と関わって自分の留学経験を活かせる仕事なら何でもしたいと思うようになった。
3 回目	2 回目から変化はない。
クラスター 3：*『3）私と韓国人との交流 (0)』『6）酒文化 (-)』『7）夜の治安悪そう (-)』『10）1 人でご飯食べにくい (-)』*	
1 回目	韓国の現地で過ごしてみてわかったこと。日本よりも、わいわいお酒を飲むこと（ゲームをしてお酒を飲ませること）への抵抗感が無い感じがした。日本では、お酒を飲むときもゲームをしたり無理やり飲ませたりはしないから韓国の酒文化に驚いた。個人的には、ゲームとかがあると飲み会に行きたくないけれど、行かないと友達との出会いの場が無いから仕方なく行っている。治安が悪そうと思ったのは、実際に怖い目にあったことは無いけれど、韓国人の友達が夜の外出を注意してくれて、人気の少ないところは怖そうに感じたから。
2 回目	韓国人の友達と過ごしながら感じたこと。お酒文化に関してはイメージが強くなった。学校の周りに居酒屋が多くて、外に机を出しておじさんや学生たちがお酒を飲んでいるのを見ると、お酒文化が日常化している印象を受ける。裏通りやモーテル街、飲み屋の多い通りはやはり 10 月と同じで怖く感じる。一人でご飯を食べにくいことに関してもイメージはあまり変わっていない。新たに日韓の「相槌」の違いを感じた。日本人（自分）の相槌やリアクションがウケたりすることが多い。
3 回目	韓国人の人との付き合い方。日本の 1 人文化と韓国のみんなと過ごす文化、それぞれ違いは感じるがどちらもいいと思う。お酒の文化に関しては嫌だなと思う気持ちが強くなった。先生と飲むときに一気飲みしなくてはいけないとか、先輩のお酒を断れないのは、健康にも悪いし理解できない。異文化として一定期間体験するのはいいが、これが日常なら耐えられない。
クラスター 4：*『8）道が汚い (-)』『16）コーヒーショップ多い (+)』『14）デリバリー文化 (+)』『15）街並みが色鮮やか (+)』『12）運転が荒い (-)』*	
1 回目	韓国の街並み。韓国の街の上を見ていると、夜遅くまでネオンが光っていたり色鮮やかな感じがするけれど、下を見ると路上駐車があったりゴミが落ちていて、ごちゃごちゃしている印象を受ける。韓国は、テイクアウトが OK だったり、持ち帰りがよくできたりすることに驚いた。実際、韓国の出前を利用した時、おまけでコーラやおかずなど付いてくることに驚いた。とても便利だが、出前が二人前以上からなので、一人では利用しにくいなと思った。運転の荒さに関しては、少し印象が悪くなった。
2 回目	韓国の建物や街並みに関して。10 月の時（1 回目）と変わりがない。建物が立つのが早いこと、トイレが汚いこと、お店の立ち代わりが早いこと、大学の坂が多いこと新たに感じた。韓国の大学は基本坂があるので、坂がないことが大学の売りになっているのを見て驚いた。18 禁の CD が売っていることに驚いた。履修登録などの重要な連絡も遅くてびっくりした。
3 回目	韓国の常識。新たに、バスや電車の中の電話が気になったが、静かに話すなど配慮があるので問題ないと思った。連絡の遅さは 2 回目と変わらない。タバコ文化について、日本は店の中で喫煙できるのは気分が悪いがよく分煙されている。韓国では店での喫煙が一切できなくていいが、喫煙所もほとんどないので道に吸い殻が落ちていたり、道でタバコのにおいを嗅ぐことがあったりして良くない。それぞれ長所と短所があると思った。また、夜に出歩く人が多い。
クラスター 5：*『17）おしゃれな人が多い (+)』『18）おばあちゃんたちがよくおしゃれしている (+)』*	
1 回目	韓国の人の服装に関して。女性に関しては、身なりで日韓あまり違う感じはしないが、男性に関しては韓国人の方が髪の毛などしっかりセットしているなど、身なりに気を遣っている感じがする。日本の男性はジーンズとかをよく履いているが、韓国の男性はスキニーや綿パンなどすっきりした服装をしている気がする。おばあちゃんに関しては、韓国の人は髪を明るく染めたりショッキングピンクを着たり派手、日本の人は髪は白髪染め程度で、服も「小豆色」のような落ち着いた色をよく着ている。おばあちゃんのファッションに関しては韓国に来て初めて感じたので驚いた。
2 回目	街を歩いている人。それぞれのイメージが無くなってきた。前回は、日本人から見て韓国人のファッションセンスがおしゃれだと思っていたが、今は韓国生活をして感覚が韓国に近づいたからか、みんなが流行の服着ていて、それを着ておけば無難だなということがわかってしまった。
3 回目	2 回目から変化はない。カップルのいちゃつきが目に付く。でも、お年寄りのご夫婦が手をつないでいるのは微笑ましい。若者のカップルに関しては目のやり場に困るが、別に悪い感じはしない。

クラスター全体	
1 回目	もっと韓国の人と親しくなりたい。もっとお互いの文化を分かり合いたい。マスコミを通してではなく、自分が直接韓国を感じることができる状況を作れたことが、この留学の良いところだと思っている。韓国人と交流して、新しい考えや習慣を学べるから嬉しいけれど、文化の違いもあるから良いことばかりではないなとも思った。韓国人の「人を内側に入れる早さ。フレンドリーさ」は日本人もこれを見習えば、外国人の人に対してもっとフレンドリーになれるのではないかと思った。また、韓国はいろいろ誘ってくれても日時や内容の詳細を全然教えてもらえないことが多いことに戸惑う。あとは、カップルや夫婦の熱々なスキンシップに驚いたりしたが、愛情表現の豊かさが良いと思った。自分が韓国の人にスキンシップをされてもそこまで嫌ではない。おしゃれとしてタトゥーが一般的なのは分かるが、やはり怖いと感じてしまう。
2 回目	留学を通して、自分が大胆になれている感じがした。韓国にいると分からないことを自分で聞いたり、何とかしなくてはいけないから、日本に一時帰国した際にも自分が前よりも行動的になっていると感じた。
3 回目	自分に自信がついた。留学を通して、本心で気持ちを言い合える友達（日本人や日本語の分かる韓国人）がいることの大切さ、出前の注文など勇気が必要な時に背中を押してくれる仲間の存在の大切さを感じた。異文化の中では「思い切り」や「広い視野」が必要だと思った。

と変化が無かった。クラスター 3 では、お酒文化に関して、韓国の街の様子から印象が強くなったと話したが、1 回目に話したようなお酒を無理に飲ませることには触れなかった。また、夜の街が怖く感じることは 1 回目と変わらず、新たに日本人のリアクションや相槌が韓国でウケることについて話した。3 回目では、韓国と日本のそれぞれの文化の良さを話しながら、お酒に関するマイナスなイメージは強まっていた。クラスター 4 では、全体的に 1 回目と変わらず、新たに「建物が立つのが早いこと」「トイレが汚いこと」「お店の立ち代わりが早いこと」「大学の坂が多いこと」のイメージが追加された。3 回目では、新たに、「電車内の通話」「タバコ文化」などが加わりながら、日韓どちらの文化にも長所と短所があると話した。クラスター 5 に関しては、2 回目でイメージが無くなってきたと答えた。理由は、「韓国に来る前、来てすぐの頃は日本と違う韓国のファッションをおしゃれと感じたが、もう韓国に慣れて特別に思わなくなった」というものである。3 回目ではあまり変化が無かった。

全体として被調査者 B は 1 回目では「韓国人と親しくなりたい」「韓国人のようなフレンドリーさを日本人も見習ったらいい」などこれからの希望が話されていたのに対し、2 回目では“韓国が”どうとかではなく、「留学を通して自分が大胆になれた」と話した。被調査者 B が韓国に慣れ、あまり特別に意識しなくなっていることはこれ以外にクラスター 5 の結果を見ても分かる。3 回目では、留学全体を通して日韓に心から分かり会える友達ができたことが良かったと話した。

3.3. 被調査者 C

図 3 は被調査者 C の 1 回目の調査時のデンドログラムである。

被調査者 C のクラスター 1 ～クラスター 3 までのクラスター解釈を以下の表 3 に示す。また、クラスター名については、クラスター 1 を「私の人生」、クラスター 2 を「韓国に来てプラスに思った点・気づいた点」、クラスター 3 を「韓国に来て困惑した点・その他」とした。

クラスター 1 では、自分の韓国に関わる将来について考えることに変わりはないが、1 回目では「通訳」と考えていた将来のビジョンが、2 回目では「翻訳以外にも、留学中の経験や日本語の教科書出版に携わったことから、翻訳や出版に関わる仕事がしたい」と幅が広くなった様子が伺える。3 回目では、韓国の生活に慣れすぎて区別がなくなったり、韓国での治安が良いことと日本人

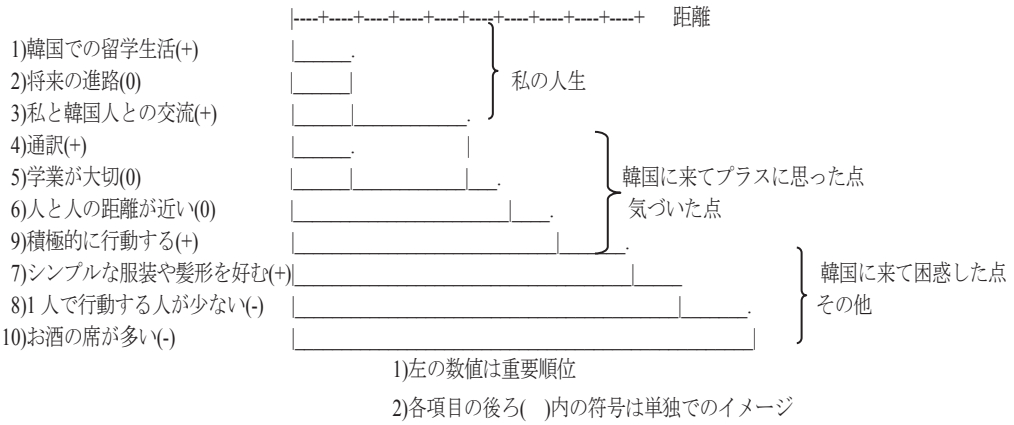

図３　被調査者 C のデンドログラム

に親切にしてくれる人が多かったりすることもあり、卒業後韓国での生活も十分できると話した。クラスター２では、1 回目では韓国生活の中で新鮮に感じていたり頑張らなくてはと気張っていたりしたものが、2 回目では慣れたと話した。3 回目も、学業や人の近さに慣れ、学業に関しては容

表３　被調査者 C のクラスター解釈

クラスター１：*『1）韓国での留学生活(+)』『2）将来の進路(0)』『3）私と韓国人との交流(+)』*	
1 回目	昔の私の憧れ、今は考えなくてはいけないこと。自分が韓国の音楽やドラマなどに興味を持つようになってから韓国についていろいろ調べたが、実際旅行で韓国に来たのは一度だけ。韓国人と直接関わる機会がなかった。将来も韓国語をつかった仕事をしたい。韓国に来てみてからは、韓国員との関わりの中で、憧れだけではダメで自分から行動しなくてはいけないと思った。文化の理解（急に物事が進んだり、急に予定が決まったりするところ）などしなくてはいけないと思った。韓国人の積極性に触れて嬉しい。自分もそうなりたいと思った。
2 回目	自分の中で深く考えなくては行けない部分。将来の進路に関してこれからどうするか真剣に考える機会が増えた。留学で学びながら、具体的に言語とどのように関わっていくか真剣に考えるようになった。翻訳、通訳だけではなく、本の翻訳出版の手伝いにも興味が湧いた。韓国の生活に違和感がなくなり、授業の韓国語にも緊張しなくなった。留学の終わりが見えて、また友達が軍隊や卒業でいなくなり、人との関わりをより求めるようになった。
3 回目	韓国に慣れすぎて、日本との違いなど全然気が付かなくなるほどになった。他学科の韓国人の友達との交流を通して、聞き取れない韓国語などがあったり、通訳のお仕事では専門用語の知識が必要だったり、韓国では英語の条件が厳しいこともあって、将来の進路で通訳は現実的に難しいかなと思った。でも、韓国と関わらない将来は考えられないので、貿易など視野を広げて韓国に関わる仕事を探そうと思った。韓国で就職しても生活に対して不安はない。日本に好感をもってくれている人が多く、反日やすりなどの治安に関しても心配ない。
クラスター２：*『4）通訳(+)』『5）学業が大切(0)』『6）人と人の距離が近い(0)』『9）積極的に行動する(+)』*	
1 回目	自分が韓国に来て気づいたり考えたりしているもの。どれも良いイメージ。日本ではあまり目標意識がなく勉強している感じだが、韓国は目標意識をもって一生懸命勉強しているところを見習わなくてはと思う。日本人のたてまえみたいなものが無くて、相手の想いを知りやすい。人付き合いしやすい。韓国人の積極性に触れて、少し自分も積極的になれてきたと思う。留学に来て将来の「通訳」になるビジョンが鮮明になってきた。
2 回目	はじめより慣れたもの。イメージが薄くなったもの。初めはすごく意識していたものが、韓国生活に慣れてあまり意識しなくなった。人の距離感に関しても慣れてしまって気にならなくなった。一時帰国した時に日本人の友達と並んで歩いて、すこし物理的な距離があるように逆に気になった。積極的に行動することも前より気張らずに調節できるようになった。通訳というのは、人と人の間だけではなく、自分の頭の中でもされているということに気づいた。

3 回目	学業や人との距離の近さに関して、韓国生活に慣れすぎて今は何も感じなくなった。留学生だからというのもあるかもしれないが、韓国生活の中での容量を得た感じがある。通訳に対しては大変なイメージが強まった。積極性が成長して、知らない人と初めて会って新しい友達を作ることもできるようになった。留学前では考えられないほどの積極性を得たと思う。日本で同じようにできるかわからないが、海外だからこそ自分の殻を打ち破れた。
クラスター 3：*『7）シンプルな服装や髪形を好む(+)』『8）1 人で行動する人が少ない(-)』『10）お酒の席が多い(-)』*	
1 回目	日本との決定的な違い。韓国の少し派手目な服装や髪型が日本で流行しているが、実際はそれとは違って落ち着いた服や髪型をする人が多いと感じた。日本では一人で行動することは普通にあるが、韓国では一人でいると「友達いない」とか「可愛そう」と誤解されるのが不便。韓国でのお酒の席では、お酒を飲ませるゲームがあって大変。お酒の種類もビールと焼酎ばかりでカクテルなどがないにも驚いた。
2 回目	生活において感じたこと（良いこと悪いこと含む）。服装や髪型に関して、日本より韓国は人と同じようにする傾向があるように思った。日本は人と同じものを持っていると変な感じになったりするが、韓国は同じでも気にしないと思った。一人で行動する人が少ないと思っていたものは、薄くなった。意外と一人でいる人をよく見るようになった。お酒に関して、事あるごとに乾杯する、ペースが早い感じがした。お酒のゲームに関しては全然慣れない。日本はゲームしながらあまりお酒を飲まないから、韓国のお酒ゲームは不思議。また、新たに「人とぶつかっても気にしないおばさん」のイメージが追加された。思ったより韓国では日本に関心がある人が多いと思った。勉強している学生に優しい。受験生割引や勉強できるカフェが多い。韓国の交通費の金額に慣れて日本のが高く感じる。韓国のカード文化にも慣れて、サインを適当に書くのがくせになってしまった。先生が優しくてフレンドリー。
3 回目	服装や髪形、1 人で行動する人が少ないことなどは、感じなくなった。服装や髪形に関しては、シンプル（似ている）ながら違いが分かるようになった。お酒の席に関しては、2 回目の時より機会が減ったり、外国人ということでお酒の罰ゲームを免除してもらったりして楽になった。でも、お酒の席で前のようなゲームがあるとしたら、自分がお酒に強くないのもあってプレッシャーを感じる。韓国の飲み会は、ガヤガヤしていて叫んでいる人が多くて、びっくりする。自分が留学生だからか先生が優しくてフレンドリーというところは 2 回目より増した。
クラスター全体	
1 回目	韓国での生活と将来。インタビューを通して自分が今何を思っているのか整理できた感じ。自分の将来も考えた上で韓国の何を苦手に思って何を好きと思っているか整理できた。
2 回目	韓国の文化に対して寛容になった。
3 回目	韓国での 1 年の留学を通して嫌なことはあんまりなかった。いい思い出が残っている。自分に親切してくれる韓国人の友達や先生から、なぜ私たちに親切にしてくれるのか話を聞いた時、日本に行って日本人に親切にしてもらった恩返しをしたいと思ってくれていたり、逆に日本で苦労をしてその部分を気遣ってくれていると分かってとても感動した。前学期と違って、今学期のバディ活動が業務的な感じがして少し嫌な感じがあったり、今学期は中国語の授業も履修して頭の中で言語が混ざってしまったりして大変だったけれど、全体としてプラスな思い出が多い。

量がついたと話した。また、韓国にいるうちに自分がとても積極的になれたと言う。クラスター 3 では、1 回目に日韓の違いで注目していた部分が、2 回目ではただ「生活において感じたこと」に変化した。また、「一人で行動する人が少ない」という項目は、韓国で生活しながら薄れたと言う。新たに追加されたイメージとしては、「韓国は人と同じことに抵抗がないこと」「人とぶつかっても気にしないおばさん」「思ったより韓国では日本に関心がある人が多い」「勉強している学生に優しい」「受験生割引や勉強できるカフェが多い」「韓国の交通費の金額に慣れた」「韓国のカード文化にも慣れて、サインを適当に書く」「韓国の先生が優しくてフレンドリー」があった。お酒に関して大変と感じるのは変化がなかった。3 回目では、韓国の服装や髪型、一人で行動する人が少ないことなどが気にならなくなったと話した。

全体として、留学を通して被調査者 C は「韓国の文化に対して寛容になった」と答えた。クラ

スター1から3を見ても、韓国で生活をしながら「慣れた」「広く考えるようになった」という項目が多く見られる。また、帰国直前の3回目では、留学全体を振り返って、いい思い出が多かったと話した。

4. 結果

1）1回目調査の特徴

1回目の調査では、「人と人との距離が近い」「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」というのが共通して挙げられた。そして、人と人との距離が近いことに関しては、驚くがプラスに捉えていることが分かった。また、「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」に関してはマイナスのイメージを持っていることも共通している。

2）2回目調査の特徴

まず、2回目の被調査者の共通点に注目してみると、「韓国の文化に慣れた」「日本に関心を持ってくれる（親切にしてくれる））人が多い」「韓国語に限らず韓国に関わる仕事したい（将来の選択肢が増えた）」「服は意外と無難（他人と同じにする）」「酒文化」「交通費が安い」という項目が2人以上共通して見受けられた。このうち、「韓国の文化に慣れた」「韓国語に限らず韓国に関わる仕事したい（将来の選択肢が増えた）」というのは被調査者3人全員から新たに出てきたもので、留学を通して韓国の文化に慣れ、「日本は」「韓国は」と身構えて考えることが無くなり、韓国生活への不安感が解消され、また将来に対する視野も広がっている様子が質問全体を通して見受けられた。「日本に関心を持ってくれる（親切にしてくれる））人が多い」に関しては、1回目では被調査者Bのみが話していたが、2回目で被調査者Aが新たに挙げており、留学を通して韓国の人が日本での反日報道とは違い日本に対して優しいことを感じていることが分かる。「服は意外と無難（他人と同じにする）」ということに関しては、1回目で、被調査者Bは「おしゃれ」被調査者Cは「シンプル」というイメージを持っていたのが、2回目では「無難」「他人と同じにする」といったイメージに変わっていた。そして、「酒文化」に関しては、一回目とイメージが変わらないか強くなったと話していた。これは韓国生活の中でお酒を飲む機会が多いことと、乾杯や飲ませるゲームが多いことによると話した。また「交通費が安い」と感じるということも、共通して見受けられた。

また、共通したものではないが、被調査者Aの「テレビ」に関して留学を通して母国（日本）のテレビの魅力にも新たに気づいたと話し、母国への関心が新たに追加されたところが特徴的である。各被調査者から韓国に関して挙げられた新たなイメージ（共通したイメージは除く）としては、「韓国人の表現はストレートに見えて実はすごく考えている」「おかずが無料」「日韓でリアクションが違う（日本はリアクションが大きい）」「建物が立つのが早い」「トイレが汚い」「お店の立ち代わりが早い」「大学の坂が多い」「人とぶつかっても気にしないおばさん」「勉強している学生に優しい」「受験生割引や勉強できるカフェが多い」「韓国のカード文化にも慣れて、サインを適当に書く」「韓国の先生が優しくてフレンドリー」が挙げられる。これを見てみると、人間関係に関して新たに気づいた部分もあるが、街の様子に関して1回目よりもイメージが具体化されていることが伺える。

2回目でイメージが弱くなったものは被調査者Aでは「コネ」、被調査者Bで「基本的に（韓国の）食べ物は辛いか甘いか」「おしゃれな人が多い」「おばあちゃんたちがよくおしゃれをしている」、被調査者Cでは「通訳」「学業が大切」「人と人との距離が近い」「積極的に行動する」と話した。

これらのイメージの弱化は、被調査者が韓国の生活に慣れて韓国料理の多様性を知ったり、日韓の違いを意識しなくなったりしたことによる点が共通している。

2 回目でイメージが強くなったものは、共通したものと重なるが被調査者 C の「お酒の席が多い（酒文化）」が挙げられる。

3）3 回目調査の特徴

帰国直前に行った 3 回目のインタビューでは、被調査者 3 人に共通して 2 回目からあまり変化がないこと、韓国に慣れて日韓の違いを意識しなくなったことが伺えた。しかし、お酒の文化に関してはネガティブな印象が変わらないかもしくは強まる傾向が伺えた。また、韓国にいながら、ただ慣れただけではなく、テレビや人付き合い、タバコ文化などのマナー、町並みに関して、日韓それぞれの良さがあると答えていた。

5. まとめと今後の課題

今回の調査では、日本人学生の韓国留学観として「人と人との距離が近い」「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」というのが共通して挙げられ、「人と人との距離が近い」に関しては、驚きはするがプラスに捉えていることが分かった。また、1 回目の調査でマイナスのイメージであったものは「一人で行動（ご飯）しにくい」「酒文化」であったが、2 回目の調査以降「一人で行動（ご飯）しにくい」に関してはマイナスのイメージが無くなり、「酒文化」に関しては変わらないかマイナスのイメージが強くなるということが分かった。これは安（2018b）の結果と一致しており、海外留学経験者は、留学期間が長くなり実体験が増えるにつれて、ネガティブなイメージがポジティブなへと変化するという共通の経験をする可能性を示唆するものであると考えられる。

また、被調査者全員に共通して、調査を重ねるごとに「韓国の生活に慣れた」「日本と韓国の違いを意識しなくなった」「日韓それぞれの良さがある」と話すことが多くなった。また、インタビューでは留学生活での様々なエピソードを話しながら「韓国人はフレンドリー」「韓国人は日本人に関心を持ってくれる（親切にしてくれる）」といった実体験に基づいた留学観の特徴も多く表れた。

今後は、日本人学生の韓国留学観だけでなく、韓国のサブカルチャー（ドラマ、K-pop など）のとらえ方の変容にも注目し、日本人の韓国留学観について多角的に検討していきたい。

付記

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号 17K02838，研究代表者：安龍洙）の助成を受けて行われた。

引用文献

安龍洙（2014）「韓国人短期留学生の日本留学観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』12, 75-88.
安龍洙（2016）「インドネシア人交換留学生の日本留学に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 1-18.
安龍洙（2018a）「東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』1, 1-12.
安龍洙（2018b）「国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察－日韓プログラム 14 期生を対象にした 4 年間の追跡調査から」『留学生交流・指導研究』20, 97-114.
池田庸子（2014）「海外留学に対するイメージ及び意識の変化－韓国語学研修参加者の場合」『茨城大学留学生センター紀要』12, 15-18.